

令和七年十月号

《第百五十四号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

かなづき
神無月の祭典・行事案内



【月次祭】

九時半より

三日（金）

二十七日（月）

【神宮神嘗奉祝祭】

九時半より

十七日（金）

【昭和天皇御製】（第一二四代）

「日光の宿にて」

たちならぶ杉のかなたにそびえたつ
あかなぎ山に雲はのこれり

「岐阜の宿にて」

夢さめし旅寝の床に鳥の声きこえて
し宿の朝あけ

「大阪市立弘済院」

おいびと
世の中をさびしく送る老人にたの
しくあれとわれいのるなり

（昭和三十二年）

奉祝秋篠宮悠仁親王殿下成年式・加冠の儀

九月六日に秋篠宮悠仁親王殿下におかれましては十九歳を迎へられ秋篠宮邸と皇居において、加冠の儀等の成年式をあげられました。

誠に御目出度く又有り難く謹んでお祝ひを申しあげる次第であります。「加冠の儀」を終へられた悠仁親王殿下には、儀装馬車にて宮中三殿に向かはれ、「賢所皇靈殿神殿謁するの儀」に臨まれ、告文を奏され成年式を恙なく終へられました。

また八日には伊勢の神宮（外宮及び内宮）に御参拝され、続けて橿原の神武天皇山陵に御参拝されました。九日には東京武蔵野御陵（昭和天皇山陵）等に御参拝されました。それぞれの場では沿道に多くの国民が悠仁親王殿下を日の丸の小旗で奉送迎しました。天皇皇后両陛下の御前での「朝見の儀」においては、『本日

し、さらに勉学に勤しむとともに、経験を積み、これまで賜りました御恩にお報ひ申しあげたく存じます。』と謝恩の辞を述べられました。

上の写真は、皇室の伝統を守る国民の会、日本会議、日本会議国会議員懇談会が主催したお祝ひする集いの様子です。

【推薦図書】

「腹黒い」近現代史②

『第二次大戦・独裁者の狡猾

共産主義に踊らされた世界のリーダーたち

ビジネス社 二千三百十円

福井義高・渡辺惣樹 著

『昭和天皇独白録』は、『大東亜戦争の遠因』から始まる。

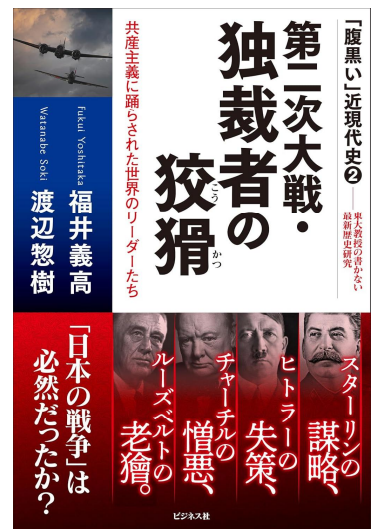
この原因を尋ねれば、遠く第一次世界大戦後の平和条約の内容に伏在してゐる。日本の主張した人種平等案は列国の容認する処とならず、黄白の差別感に依然残存し加州移民拒否の如きは日本国民を憤慨させるに充分なものである。又青島還附を強いられたこと亦然りである。

か、る国民的憤慨を背景として一度、軍が立ち上がった時に、之を抑へることは容易な業ではない。

我々も、国家元首として当時の国際政治の当事者であつた昭和天皇と同様、ベルサイユ条約を「大東亜戦争の遠因」とする観点から、ただし、条約の負の影響が直接的だったヨーロッパを中心に、戦間期について語り合つた。・・・」（おわりにより）



の成年式にあり、天皇陛下の御臨席のもと、成年式を終へることができました。誠に深く感謝を申し上げます。成年皇族としての責任の重さを自覚



本居宣長の

『直毘 霊』を読む (六)

古の大御世には、道といふ言挙げもさらになかりき。

故れ、古語に、葦原の瑞穂の国は、神ながら言挙げせぬ国といへり。

其は、ただ物に行く道こそ有りけれ。

美知とは、此の記に味し御路と書ける如く、山路野路などの路に、御てふ言を添へたるにて、ただ物に行く路ぞ。此をおきては、上つ代に、道といふものはなかりしぞかし。

【現代語訳】

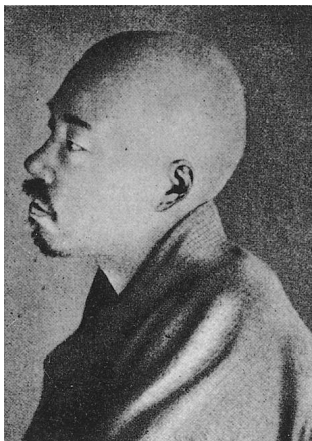
昔の御治世には、道といふ口に出して言ふことも、まったくなかつた。

だから、古い表現に、葦原の瑞穂の国は、神のまにまに口に出して言ふことをしない国であると、いふのである。

それは、ただ、どこかに行く道といふ言葉だけがあつたのである。
道とはこの『古事記』に味し御路と書いてあるやうに、山路野路などの路に御といふことばを添へたものであつて、単にどこかに行く路といふことだ。これ以外には、上代に道といふことはなかつたのだ。

本居宣長と「古今和歌集」(五)

宣長の師である賀茂真淵は、その著「歌意考」で『歌はただひとつ心をいひ出るものにしありければ、いにしへは、こととよむてふ人も、よまぬてふ人さへあらざりき』と「万葉集」を礼賛してゐます。それに反して、宣長は「古今和歌集」を『まことに歌は古今三代集に過る事はなき也・・万葉をまねてよまぬとするは大なるひが事也』と言ひ、「古今和歌集」は歌を詠むための基準だとしてゐます。「万葉集」はあくまでも古語を学ぶための手段にすぎないとし、詠歌の役にはたらないとしてゐます。



このことで、思ひ起こされることは、正岡子規の『歌よみに与ふる書』における『古今

和歌集』を否定する「貫之は下手な歌よみにて古今集はくだらぬ集に有之候」と言ひ、「万葉集」を重んじてゐることです。

宣長が何故に「古今和歌集」を重要視したのであらうか、それは「古今和歌集」の編纂の時代背景にあるとしてゐます。(続き)

【マウス供養祭】 十月四日(土)

第二十九回マウス供養祭がしろへび会館において行はれます。子供飼育員十二名の他保存会会長、岩国市教育委員会、保存会飼育員等の参列を得て、岩国しろへびの命の糧である二十日鼠を懇ろに供養するためであります。国の天然記念物である「岩国白蛇」が減少の傾向にある中、安定した「命の糧」の確保が最重要です。子供飼育員と共に感謝のまことを捧げたく思ひます。

【祝・白蛇保存会創立七十年】

同日の十四時からは岩国白蛇保存会の設立七十年の記念奉告祭が白蛇神社にて関係者参列のもとで斎行されます。

崇敬会会員の募集

〈特典〉

- ・年末に神社の御札を授与(郵送)します。
- ・崇敬会会報を年二回送付し、祭典行事等を案内します。
- ・拝殿内にて参拝できます。
- ・御札・お守の郵送を承ります。
- ・入会時に記念のお守を授与します。
- ・(年会費)

- 個人一口以上(一口二千元)
- 法人一口以上(一口一万元)
- 〈入会方法〉

郵便振替用紙に必要事項を記入し、郵便局または社務所にて払込みください。